



塗装の前に傷んだ塗料やさびなどを除去します。これがなかなか大変。

プロの指導で渡り板の塗装補修を実施

1月26日

塗装の傷んだ水路渡り板の補修を2か所で実施しました。

市道から圃場に入るには水路を超えてはなりません。そこで古い電柱の木材部分を束ねて渡り板としていました。農地水環境保全事業が始まった時にこの電柱を手すりのついた鉄製の板に作り変えました。

それから6年もの年月が経ちました。さすがに手すりの部分には錆が目立つようになってきました。このまま放置すると安全にも問題があるかもしれないので、塗装の補修を行うこととしました。

塗装作業の指導には地区で塗装業を営んでおられる西尾さんをお願いしました。錆の取り方など、塗装の前作業を指導してもらい、おおむねきれいになったところで、塗料を塗り始めました。

ところが塗り方、塗る順序というものがあつたことを考えに入れていませんでした。手元に近いところから塗りだしてしまうので、手の届きにくいところが塗ろうとすると、今塗ったところが邪魔になって手が伸ばせません。

結局、衣服のあちこちに塗料がついてしまいましたが、これも良い経験となりました。

それいけ八方原消防組

1月12日、小郡地域消防出初め式として合同訓練が行われました。市消防団小郡方面隊と私設消防組と一緒に、小型ポンプ操作を競うものです。

こうした訓練では、思わぬトラブルが起きることがあります。あるいは操作の勘違いも出たりします。何も起こらなかつたチームは少なかつたようです。それこそが、この訓練の目的でしょう。それぞれの課題として今後にかかすことが大切なことではないでしょうか。



順調に見えてもホースが裂けたり、様々な事態が起きる

「チームハッポウ」きらら浜を疾走

1月19日、きらら博記念公園はランナーたちの激しい戦いの場となりました。第9回山口市駅伝競走大会は全部で210チーム、約1400人のランナーが14.7kmのコースで健脚を競いました。チームハッポウは一般1部76チームの戦いに挑戦し、15位の好成績を収めました。

レースを終えて。前列右から国田君、国本君。後列右から原田裕基君、和泉ちゃん、広文君、原田昌通君



大会に先立って1月7日に、開会式と監督会議が行われました。この時の受け付け順が、そのままスタート位置になりましたので、競技は此処から始まったという事になります。

コースは昨年同様の5区間14.7kmです。選手も昨年同様の布陣で臨みました。1区は原田裕基、2区原田昌通、3区国田純一、4区原田広文、最終区は国本康喜各選手です。昨年は52分58秒で11位でした。前回の成績を上回るように頑張りました。



出走前の国田君

3区へのタスキリレーでちよつとト
ラブルがありました。進入
してくるゼツ
ケンのコール
が、良く伝わ



1区から2区、昌通君へ



昨年以上のタイム裕基君

トして、公園をほぼ一回りする最長
4.3km区間です。裕基選手は快調で
す。中盤にはトップグループの一角を
占め、レースを引っ張りました。
4位で2区の昌通選手にタスキを渡
します。昨年のタイムを縮めてみせる
と意気込みましたが、もう少し届きま
せんでした。しかし、好位置を保った
まま、3区の国田選手に。



「任せろ！」広文君から最終区の国本君へ

4区には裕基選手の父親である広文
選手が待ち受けていました。レースは
終盤に近づきました。若い選手に伍し
て堂々と走ります。「月の海」へ向け
ての左カーブを回ると、中継所が見え
てきます。気力を振り絞って、ラスト
スパート。タスキは国本選手に渡りま
した。
最終区にはどのチームも強い選手を
配っています。一つでも順位を上げよ
うと必死の攻防です。グラウンドへの進
入路からラスト1km、ドームをめがけ
て全速力。ゴールラインを駆け抜けた
のは53分22秒。選手の皆さん、素晴ら
しいレースをありがとうございます。